

特集Ⅱ 俺たち活躍中!

— 団体紹介 —

人間はひとりぼっちでは生きられないものらしい。人は人を呼び友を集め、集団を成して社会を創る。「人間は社会的動物である」と言ったのはアリストテレスだったか。人間は社会を離れて存在できないと二千年前のこの哲人は言ったけれど、真理は時を超えて現在を説明する。原稿集めに駆け回る私達の耳に真理は再び甦ったのです! 大学という団体は大きすぎ、学部という集団では飢き足らず、何々コースまでわかれてやっと安心したかと思うとこれが甘く、何せ我ら「社会的動物」、さらに人を呼び友を集めて、勉強会・研究会・同好会・同人会等々と銘打ってやたら人間は集まりたがる。編集部では、日頃風のたよりに総合科学部に群生すると聞いていたこうした様々の団体を、今回、白日の下に晒そうと企てた。もちろんこれで全部じゃない。原稿を快よく引き受けてくれたところもあるし、断わられた(!)ところもある。が、ともかくその品種の豊富さに初めて出くわした編集部の驚きはそっくりそのまま以下を読まれる読者のものでもあるにちがいない。彼の哲人は「共同体は、最も熱心に善きものを、しかもすべての善きものうち至高のものをめざしている」と言った。以下に連なる小集団たちもそのようなものであってほしいと思う。

— 1・2年の部 —

ストリッパーズ

我がストリッパーズとは、売春組織でも、ヌーディストクラブでもなく、多種のスポーツや積極的な活動を通して、健全なプロポーションと精神を育成しフランクな裸のつき合いをすることを旨とするスポーツ軍団でございます。

現在、総科53生を中心に男子18名・女子12名が登録しており、各種スポーツ大会、行事に参加予定であります。53生としての誇りを前面に押し出し、東大にライバル視されていることを意識して、ストリッパーズのメンバーとして悔いのない大学生活を送りましょう。尚ストリッパーズ内において、「りぼん友の会」広大支部も結成しております。

さあ、皆さん裸になりましょう! ストリッパーズばんざい! SSAをうちのめせ!

以上入団希望者は、総科研究室にいつでもきてください。おまちしています。

ハムツ

「辛苦憎苦ハムツ」より愛を込めて、皆様へのメッセージ、そも「ハムツ(破無僧・HAMMÖTS O)」の語源を迎れば、遠くシュメール語に行き着かん。これは総科のインポ的文化人のグループなのです。メンバーは数名(総科52生中心・うち変態数名・おぼこ娘数名) 結束力はなはだ弱く、親睦精神まるでなし。至ってクールなのヨ。

現在、劇映画(製作費5万円)製作中。ミニコミもそのうち発行致したく候。ついては筆耕係、イラストレーター急募(男女年齢不問)。演劇もやりたくて、今年演劇研究会に大量入部せり。そこでおネガイ。役者、装置、照明、音響係募(初心者可)。

以上連絡先……演劇研究会BOX或いは平山宅(電49-1446)

なお「猟奇性欲研究会」は、我々の関知せざる団体ゆえ、誤解なきよう。では、これにて失礼つかまつる。「破軍星 無き卯浪辺を僧の往く(彰男)」

hop

ご存知の方も一部にはいらっしゃるでしょうが、まだ知名度も低く、内容も軟弱、無意味、まだまだこれから……という感じの(只今2号発売中)ミニコミ誌“hop”です。

“hop”とは、ビールのあのhopにあらずや。“hop・step&jump”の、hopなのです。今だに“step”まで到達できない私たち3人、“3号までは作ろう”と、つぶれかけながらもがんばっています。

そもその始まりは、何か物足りない、自己主張をしたい、飛びたいという漠然とした目的。しかし、3人それぞれの目標は持っているみたいですね。2号まで出してみても、その目的が達成できているかどうかは疑問ですが…。今、反省の真最中。

——飛翔に登場できるなんて、／——手がふるえてうまく書けませんでした、とにかく、“hop”を読んでみて下さい。みなさんにお会いできる日を夢に見つつ、“hop No.2”は情報研究室のロッカーの中で眠っています。

牛田・戸坂地区勉強会 ——オカマとオバケとオレの勉強会——

先日一年生のかわいい女の子に微積分の問題を解いてくれと頼まれた。オレは昨年微積はAを取り、更には環境の一群に進んでいる。ここぞとばかり張り切って挑戦したが、見事に破れ醜態をさらした。この一年間オレは何を学んで来たのかと考えながら研究室に帰り、オレの下宿の近くに住むオカマチックな友人にこのことを話すと、彼もその問題が解けない。「酒が飲めて麻雀が強くて微積は解けん。二人で勉強会開こうや。」

これが発端となり、戸坂・牛田勉強会が発足した。発起人はオカマとオバケとオレの三人。人間離れしたオバケまで勉強しようと言いだしたのだから一大事。新設学部としてのハンディを、自分達の実力で克服するためにも、遊ぼうと思えばいくらでも遊べる大学生活で、オレ達にこれをやらせたら日本一だともではないが、少なくとも、「さすが総科」とだれにでも認められるだけのものを身に着けたい。

オレ達の当面の目標は、総科生全員に課せられているプログラミングと、専門基礎科目の完全マスターであるが、その後は英会話なども交えて、この会を卒業するまで続けて行きたい。

いんてぐれいと

去年の6月、1年の研究室から沸き出した52生の、投稿は全部載せるミニコミ誌。

“いんてぐれいと”とは総合科学部=The faculty of integrated Arts & Sciencesからとったものなのだ。更紙裏表刷りで2、3枚。編集人が徹夜しながらファクス原稿用紙に書き込んで、印刷は厚生補導係の好意による。創刊号と2号は文芸誌。3号は52生で大学祭に参加しようと呼びかけて、4号は大学祭の市中パレードや喫茶室や8mm映画上映で配った。5号は大学祭の報告集で増ページ。2月の6号は52生対象のアンケート集計。このあとは2年になって、みんなからの投稿とカンパが集めにくくなったためか尻切れとんぼだ。でも“いんてぐれいと”は52生をintegrate(統合する)ため、友情を深めるため、自コース以外の同じ学科の仲間がどんなことをしているか知るため。官報じゃない、僕らの熱い胸から出た手作りのミニコミ誌なのです。

SSA(総科スポーツ愛好会)

私達総科スポーツ愛好会は現在四十数名の会員を容する、スポーツを自他共に愛する集団です。スポーツは多くの仲間と汗を流し、ある時は1つのボールを追い、又ある時はひとつのゴールめぎして皆で走る、その中で培われる、心の交流があるのはいうまでもありませんが、私達は新学部総合科学部の中であって、何かエネルギーを貯え、何かをやるためにも、心のふれ合いを求めて現在活動しています。一応火・土が練習日で、広大内にて行なわれるフェニックス・スポーツ大会全出場を目ざし、日々精進しています。何かをやりたい、又、俺はこんな事ができるぞ、という方々、自分の活動の場をSSAで見つけてみませんか?SS

Aはスポーツに限らず何でもできる場です。若いあなたの力を待っています!!

P.S. なるべくお酒の好きな、もしくはその雰囲気好きな方はぜひどうぞ。

こぶしの会

「こぶし」は、このヒロシマの地において自分達の総科でやろうとしている学問のそれぞれの立場から平和を考えていこうとする52生によって作られた学習会です。現在、会は結成したばかりで、メンバーは4人であり、活動も具体的には行なっているとは言えませんが、少数精鋭主義(?)をモットーにして、平和とは何か、そして平和をめぐる問題としての核、軍縮、国際関係等を見つめ直し、会独特の個性を作っていきたいと思っています。活動日は週一回、場所は大学の付近の喫茶店であります。

註)こぶしとはモクレン科の落葉高木の辛夷のことであり、鉄ケシのことでありませぬので誤解なさらぬように願います。

— 3・4年の部 —

中国近現代史研究会

私たちの中国近現代史研究会は「中国近現代における農民運動」をテーマとし、主に1920年代から現代までの中国農村の実状を経済・政治・社会制度・宗教等各自興味ある立場から研究し、旧中国の封建社会とそこから農民がどのようにして自己を解放していったかを把握し、中国革命における農民運動、土地革命の意義とその特質をさぐることを目的として毎週一回例会で一人が発表を行うという形式でなされています。

とたいそうな事を書きましたが、実はこの研究会は私たちが自主的に相談して起こったものではなく、アジア研究において様々な研究会を発足させ学生間のアカデミックな交流を図らなければと考えた有志が、アジア研究に全員集合をかけかくて中国近現代史を専攻する私たちが十把一からげにされたわけです。ついうっかりとリーダーをひきうけてしまった私は、それぞれ関心の違うメンバーがはてしなく平行線の主張をするのに業をにやし上のようなテーマをやると断固宣言し、勝手にあなたまかせの計画をたて、こうしてヨタヨタと我が研究会が発足したわけです。各自の自主性にまかせノルマさえ果たせばなんの強制もしないというやり方は、上のような事情からこの研究会の最大の弱点になっており、シビアになるか軟弱になるかもメンバーのやる気ひとつにかかっています。

私たちの力量では第一次資料にあたってそれを評価しそこから独自の見解を引き出すことはできませんが、せめて論文を読む練習をし一般的な知識を整理しそれを定着化させ発展させ、授業・卒論の助けとなればと思うのがこの研究会と後輩に対する私のささやかな願いです。

サッカー同好会

気楽にスポーツを楽しみたい—そう思っている人は少なくないでしょう。天気の良い日には外へ出て思いきり走りまわってみたいものです。スポーツの効能はあらためて言うまでもありません。サッカーの好きな者が次第に集まり、そして総合科学部サッカー同好会が生まれました。以来私たちは浮き沈みしながら今日までボールを蹴り続けてきました。

そういうわけで、私達のサッカー同好会は体育会の運動部とは根本的に異なったところから出発し、内容もずいぶん違っています。厳しい練習、苦しさの中で生まれる友情、勝利の感激、そういうものを求められるむきには体育会サッカー部に入部されることをお勧めします。

私達は気楽に楽しむことのできる同好会を今後も続けてゆきたいと思っています。と言ってもサッカーというスポーツそのものが持っている厳しき激しきを見失うことはありません。楽しく、しかし真剣に、それは生活や学習にも生かされています。私達と一緒にサッカーをしませんか。ききく連中があなたを待っています。